

## 山元町総合計画審議会委員意見一覧

1: 第1回審議会

2: 第2回審議会 ②: 第2回審議会後ペーパー意見

3: 第3回審議会 ③: 第3回審議会後ペーパー意見

委員		将来像や基本理念、使用する言葉等、基本構想に対する意見
萱場委員	3	10年前の将来像にも「笑顔」とあるが、実際みんなは笑っていない。その理由は様々あると思うが。
	3	現計画の将来像でも笑顔が入っており、今回もその繋がり笑顔という文言を入れたのかという意図を感じる。
早坂委員	3	基本方針に「明るい」「笑える」などといった心温まる言葉を盛り込んでも良いのではないかと。
伊達委員	3	カッコ内の分野について、5つの基本方針に必ず分けなければならないのか。完全に分けられるものではないと思う。カッコは別の欄に設け、基本方針と矢印で結ぶような形にしても良いのではないかと。
	3	(基本方針の分野を記載した)カッコ自体をすべて消してしまえばいいのではないかと。
	3	将来像はこれでいいのか。語呂が悪い。笑顔が輝くというのがよくわからない。
	③	p 5、「SDG s」の注釈を欄外につけてはどうか、分からない人が大半ではないかと。
	③	p 6、(8)「若者の参加」や「世代間交流」の重要性についても記載してはどうか。
	③	p 6、(10)に「災害の危険性」に近年の気候変動による局所・短時間での重人自然災害(土砂災害等)の頻発、防災・減災から免災へ、国土強靱化の動き、についても記載すべき。
	③	p 7、「創造的な復興のトップランナー」は大げさで自画自賛で笑えてしまうのでもう少し表現を変えるべきではないかと。
	③	p 11、農業産出額の以前のデータ(H12, 17, 22)が無いのはなぜか (p 8~13、この間のグラフなどは参考資料に移動を考えてはどうか)
	③	p 14、(5)近年の主な動向 過疎地域に指定されたことによる、メリット、デメリットについて注釈を欄外につけてほしい。
	③	p 14、③常磐自動車道… 仙台からの距離や時間も記載してはどうか。
	③	p 14、⑦震災復興による地域環境の変化(追加してほしい) ・沿岸部からの移転による新市街地のコンパクトシティの実現
③	p 14、⑦震災復興による地域環境の変化(追加してほしい) ・新市街地の造成やJRの内部に移設による新遺跡(合戦原・線刻壁画、犬塚・製鉄炉跡)の発掘・発見、なども記載してはどうか。	

③	p 1 6、4、防災力の維持や生活利便性の向上 なぜ、「防災力の維持」と「生活利便性の向上」をひとつの項目にまとめる必要があるのか、意味不明。
③	p 1 7、5「環境に配慮したコンパクトなまちづくりの推進」意味が違うのでは 「環境に配慮したまちづくり、コンパクトなまちづくりの推進」となるのでは
③	新市街地周辺への移住者（町外から、町内も）への受け皿づくり（住宅地供給）に より更なるコンパクトシティ化に向けての進展を模索する
③	P 1 8～2 4、町民の意向と期待（町民アンケート調査結果） これについての調査結果はこの箇所への記載は調査結果の結論のみとし、グラフや図表などは参考資料（巻末にまとめる）にしてはどうか。あまり説明が長いと読まないし、基本構想は要点を短く記載したほうが良い。 （都市計画マスタープランを参考にしてはどうか、p 8～1 3も同様に整理しては）
③	p 2 5 第5章まちづくりの戦略課題 課題1；町民… ここで環境という言葉の使い方がおかしい。 生活環境と自然環境がごちゃまぜ状態。整理が必要ではないか。
③	p 2 5 第5章まちづくりの戦略課題2；（1行目）…増加しており、（追加）さらには1人世帯、独居老人も増加しており、それを地域全体で支える…。
③	p 2 6、（1行目）「インフラ整備や行政サービスの格差」について、ここでいう格差は町内での格差なのか、たとえば仙台と山元町との格差なのか、ちょっと分からなかった。
③	p 2 6、課題3、若者は外・都会に出たいという気持ちは持って当たり前、ここに生まれてから一生終わるまで押しとどめておくことは不可能と思う。一度外へ出て、社会勉強して、戻ってきてもらおう。したがって、戻ってきやすい環境、戻れる場所を整えておくことが必要と思う。 交流入口拡大に向けた取り組みから、良さを理解してもらい、定住へと向けた取り組みが必要ではないか。
③	p 2 9 第1章（前段、8行目）第5次計画での成果を踏まえつつ、→第5次計画の成果と課題を踏まえ、
③	〔基本理念1〕「実感する」はいらぬのでは
③	P 3 0 第2章 キャッチフレーズ 『キラリやまもと！みんなの笑顔が輝きつづけるまち』について キラリは一瞬の輝きを表す言葉、つづけるとは言葉としてあわない。 まして笑顔が輝くは意味がおかしい。輝くは瞳。 『キラリやまもと！』はキラリとひかるものがいっぱいある町ということだと思いが 次につづける言葉が難しい。公募してはどうか。
③	p 3 1、人口推定は妥当だと思う。
③	p 3 3 健やかな・・・ （子育て環境、・・・）のかっこの中は記載しなくてもよいのではないか。

		縦割り組織を意識しすぎている。組織はいつ変わるかわからないので意味がない。
	③	p 3 3 健やかな・・・ また、「保険・医療」と一緒に括りにしているのに「障がい者福祉」と「高齢者福祉」はなぜ、別の括りにしているのか。これも縦割りか。
	③	p 3 4 地域の資源・・・ もう少し資源の内容を詳しく、具体的に記載しては、例：文化・歴史（史跡、遺跡等）・・・
	③	p 3 4、2項の文化・歴史と3項の文化・芸術の同じ文化という言葉でも意味の違いを説明し、 明確にすべきと思います。例；3項の文化（伝統神楽等）など
	③	p 3 4、最後に「交流人口の拡大につなげていく」などと記載してはどうか
	③	p 3 5、5 コンパクト・・・ また、厳しい行財政運営の中… ・行政運営の効率化⇒行政運営の効率・低廉化 ・町民の満足の高い行政運営⇒町民の満足度が高く、しかし低コストの行政運営 ・（追加）A I、I T化を促進し、スモールシティ化、従来仕事のプロセスの変更、窓口業務の一本化、事業項目の削減・統合化などおもいきった業務再構築（スクラップアンドビルド）により、行政の事務コストの削減（役場内の自らの身を切る改革が必要）に努める。
	③	p 3 5 自然環境を保全しながら… ・自然環境の保全と質の高い都市機能やサービス…は分けるべきではないか。 ・「しながら、・・・させる」は次元が違うので一緒にするのはおかしい。 ・SDG 3「環境に配慮した持続可能な生産消費形態の確保」の考えにのっとり、その実現のためにコンパクトシティ化は必要。山元町がその牽引役となる。
荻原委員	3	基本理念1に「住んで良かったと実感する」という文言があるが不要ないと思う。その代わりに、「便利で快適な魅力あふれるまちづくり」といったようにする方が明るいイメージでよいと考える。
阿部委員	3	計画の内容について建前としてはいいと思うが、中高生には実現できるのかという指摘を受けた。コンパクトのコンパクトの部分には約束という意味がある。将来に向けて約束をできるのかという内容の話を次回したいと思う。
清橋委員	3	基本方針内のカッコ内に関して、今の形を見ると担当課ごとに分かれているように見えるが、課ごとに分けてしまったら連携すべき時にうまく連携できず、事業がバラバラに進んでしまい、町民が思った方向に進まない危惧があるのではないかと。分かれているなど思うようなものでなく、総合的に繋がるようにしていけないだろうか。
	3	基本方針1から4に関してはSDGsの考えを方針の中に入れ込んでいると思うが、方針5はそれに当てはまらなかったものを入れたように見える。SDGsの考え方に沿って作るのも良いが、山元町の自然な考え方を基にした結果このような形になったというようにする方が良いのではないかと。

岩見委員	3	基本方針の言葉とカッコ内の分野項目は、どちらが先に来るものなのか。言葉に対して分野を当てはめているのか、もしくは逆なのか。例えば基本方針 1 の「健やかな暮らし」という言葉はすべてのことに当てはまるので、全ての分野の範囲になってしまうのではないか。
栗和田委員	3	基本方針 1 に入っている「子育て環境」は、基本方針 3 に入れる方が良いのではないか。小学校以降だけではなく、その前からの子育てにも教育が必要な時代だと考えている。故に子どもに関しては一括して基本方針 3 に入れてはどうか。一括したほうが役場内での連携も取りやすいのではないか。
佐藤（恵）委員	3	住んで良かったという視点はあるが、住んでみたいという外から集める内容がない。人口を増やすという視点がないような気がする。住んで良かったよりも、住んでみたいといった前向きな文言の方が良い。
田所委員	1	震災以降人が減り、子供たちも遊ぶ相手が少なくなっている現状があり、家で遊ぶしかない状態となっている。そのような子どもたちの 10 年後を見据え、審議を進めるべきと思う。

委員	基本計画に関する意見	
伊藤(順)委員	1	障がい者、高齢者施設等に対して一般の方々に知ってもらい、地域のボランティアに入ってもらえるような地域づくりをしていきたい。
	1	障がい者と高齢者が共生できるサービス・地域交流支援を。
	3	今後高齢化が進み買い物難民が増えると思う。さらに子どもも少なくなり学校も減ると思うが、それによってスクールバスの運行が必要となると思う。そのスクールバスを買い物難民となっている人の買い物バスとして運行してはどうか。買い物等の高齢者にとって楽しみになることがあっても良いと思う。
萱場委員	1	他町の方より、山元町の文化活動の場の多さを褒められることがあるが、高齢者がイキイキと生活するためにも、今後もこのような交流活動の場は大切に続けるべきと考えている。これは財政の助けにもなると考えている。
	1	地域と一体になるような、まちづくりや地域づくり、山元町らしい人づくりをしていくべきと考えている。
	②	高齢者には健康に長生きしてもらい、子供を産みたいと思う環境を整え、生まれた子供たちは地域全体で育てていくようなまちづくりが必要ではないかと思う。
	②	自然や地域の繋がりといった、子供たち視点の町の魅力的な部分を将来へと残す必要があると思う。
	②	少年の森をグリーンベルトと題してサイクリングロード等として整備し、駅に貸自転車を置くことで人の動きを生み出し、その間にある商店等に経済効果を生み出す。
	②	外国人労働者受け入れに関して、生活習慣の違いや住居の確保、犯罪や住民トラブル等が考えられるが、同時に、国際化・人口増加・経済効果・語学力の上昇などのメリットも考えられる。
	②	外国人との共生のため、支援体制の確立や町民の共通理解を早めに図る必要がある。
	②	自然環境の保全
	②	少年の森を中心に南北の歩道の整備を行い、ハイキング・サイクリングへの活用。
	②	震災遺構の中浜小学校をメインとした歩道の完備
	②	日常の買い物に困らないように、マルシェのような市(いち)を、区ごとにローテーション方式で公会堂などに展開
	②	健康寿命を延ばす施策も財政上必要であるため、図書館の設置を提案。山手の方に作ることで、お年寄りに歩いてもらうことも考えられる。
	②	中学生アンケートの結果を反映し、中学生の純粋な思いを裏切らないような町づくりを行う。
②	再編により、学校の数を減らしても、基本ができていないと良い教育に繋がらない。	
②	ある国で「貧しくても幸せ」という指標の結果があったが、「この町に住んでいて幸せ」という答えをもらえるようになることが望ましいと思う。	
早坂委員	1	山元町は自然環境・高速道路や鉄道がそろい、住みやすいと感じている。

		このようなことをさらに活かすこと考えていくべきと思う。
	1	交流人口 100 万人を掲げているが、やはり定住人口を増やすべきと考える。
	2	企業誘致と定住促進が重要と考える。
	2	雇用人数が少ないとの声も聞こえてくるため、その改善も必要と考える。
伊達委員	1	これまでのコンパクトシティ化によって海側の移住はできたが、山側はできておらず、近年の大雨による土砂災害を考慮すると、山側のコンパクト化も進めるべきと考える。
	1	町全体のコンパクト化を進めるにおいて、移住先の住む場所の確保も求められるため、つばめの杜の宅地を増やしていくことも必要と考える。
	1	コンパクトシティ化でインフラ等の行政コストを削減し、その余剰分を子育てや教育へ回すといった方向性を考えている。
	2	これまでは災害への対応として、守る・逃げるといったものがあつたが、次期計画からは、災害のない安全な場所に住むといった視点も必要ではないか。
	2	インフラ費用の縮小や、安全のためにも山側の移住を行い、コンパクトシティ化を進めるべきと考える。
	3	これまでの山元のコンパクト化はあくまで被災した海側のみであるが、これからの災害リスクを考えたときに山側の土砂災害などがあり、山側の移住によるコンパクト化を進めていくべきである。
	3	すぐに移住するのは難しいので、今後 10 年で山側に住む人の中心街への移住の受け皿を作る必要がある。
	3	中心街の一か所にまとまっていれば、老人への訪問や買い物も便利に行うことができ、インフラ等の行政コストの削減・災害時の救助活動の負担減になる。老人等が中心街に住むことにより、買い物難民を出さない効果もある。
	3	お年寄りが移住を考えることは難しいと思うが、それでも子や孫の次世代に向けては集約が必要であり、この考えを町民に知ってもらう努力が必要である。
	②	自然災害からの脱却、災害リスクのないまちづくり（「減災」から「免災」へ）
	②	町の財産である歴史遺産（蓑首城跡や茶室など）・遺跡（合戦原線刻遺跡など）の活用
	②	周辺を含め、歴史公園、遺跡公園への位置付け、拠点づくりと周辺整備→フットパスマップ、観光地図作成での周遊ルートの選定
	③	新市街地周辺への移住者（町外から、町内も）への受け皿づくり（住宅地供給）により更なるコンパクトシティ化に向けての進展を模索する
	③	p 26、課題 3、若者は外・都会に出たいという気持ちは持って当たり前、ここに生まれてから一生終わるまで押しとどめておくことは不可能と思う。一度外へ出て、社会勉強して、戻ってきてもらう。したがって、戻ってきやすい環境、戻れる場所を整えておくことが必要と思う。交流人口拡大に向けた取り組みから、良さを理解してもらい、定住へと向けた取り組みが必要ではないか。
荻原委員	1	住まいを探すうえで教育というものは大きなポイントとなると思うが、

		学校再編により、学校がなくなってしまう地区があれば、その地区への移住等を取りやめる方もいるのではないか。
	1	少子高齢化対策には、魅力的なまちづくりが必要と考えており、商業施設や医療の充実、はらこ飯やイチゴ等の PR といった山元町独自の取り組みが必要と思う。
	1	家を建てることへの補助など、移住に関する PR を積極的に行うことも重要と考える。
	②	1. 理念について ・美味しい・楽しい・嬉しいが揃う、笑顔あふれるまちづくり ・利便性に富んだ、だれもが生活しやすいまちづくり ・街の宝である子供達を、愛情たっぷりにつつみこむまちづくり
	②	2. 定住人口の確保（まちづくり） ・公共交通が便利なまち、日常の買物が便利なまち
	②	3. 人口増への準備（まちづくり） ・利便性の良い魅力的な地区（つばめの杜）の住宅地を増やし、新たな定住者も安心してくらせるまち
	②	4. 交流人口増へ（観光・交流） ・山元町の素敵なところを町外へアピールし、遊びに行きたくなるまち
	②	5. 町の子供は宝（子育て） ・子供の安全、成長を見守り、みんなで育てるまち
	②	6. 愛されるまちづくり（まちづくり、産業） ・山元町の自然や特産品を大切にし、ふるさとに対する思いを育むまち
清橋委員	1	魅力的なまち・誰もが住みたくくなるようなまちというものは年代によって違いがあり、財政基盤の中で、必要と思うものに順位をつけて考えていくべきと思う。
	2	求人に関して、正社員でなく、パートや派遣では収入の面から言って魅力を感じない。
	2	定住促進に関して、移住者への支援は手厚いが、現在住んでいる支援も怠るべきではないと考える。
	3	土砂災害警戒区域に関して、町からの説明では心配はないと聞かされている。この結果から土砂災害を根拠とした山側からの移住は難しいと考える。もし土砂災害の危険性をもって移住を促すのなら、町の意見との足並みをそろえる必要があるのではないか。
	②	今後も継承すべき点として、だれもが住みたくくなるようなまちづくり。
	②	歴史や文化を大切にするまち →子どもの時から、山元町に残る遺跡や文化財から山元町の歴史を学ぶ機会を設ける。
	②	未来を担う次世代を育てるまち →子どもを心身ともに健やかに育み、教育に取り組むまち →若い世代が住み続けたいと思うまちを目指す。
	②	100年後の緑を創るまち →震災で削り取られ、無くなった里山や丘の跡に木を植え、平地に林や森を再生する。
	②	定住に関して、町外から移住者を呼ぶことだけが定住促進ではなく、現在住んでいる次世代の不安を解消し、住み続けたいと思ってもらうこと

		も重要である。
岩見委員	1	行政だけに頼らず、あるものを活かし、町民自身が意識を持つことで町の良さを活かせると考えている。
	1	子育てしやすいまちづくりを行うと同時に、子供に町を好きになってもらえる取り組みも重要と考える。
	2	アンケートからは、中学生は町を好いているが、働く場所が無いように感じているようにも見えるため、地元企業の働きたいと思わせる努力や、働きたいと感じる企業の誘致が必要と考える。
	2	地元企業の魅力を伝えるためにも、職場体験などを幅広くすることも考えられる。
	3	文言の中に定住などの内容はあがるが、インバウンドに関する内容のものはないと思う。方針の中に入れてはどうか。
伊藤(洋)委員	2	職場体験が、地元での就職に繋がったこともあるが、やはり都会に出たいという声も多いため、山元町で働きたいと思ってもらうには、企業の努力が必要と考える。
川村委員	1	学校では、子どもの数も減ってきており、部活の廃部等の問題も起こっている。学校再編に関しては早急に対処する必要のある問題と考えている。
	3	学力向上についての文言が無い。学力向上については学校や家庭との協力が必要という話し合いがあったが、それについて触れられていないので追加をするべき。
	②	坂元地区では、店などもなく、不便な思いをしている人が多い。
	②	山下だけ栄えており、そこ以外は過疎地となっている。
嶋田委員	1	交流人口 100 万人を掲げているが、山元町には宿泊施設がなく、不便を強いられる場合もあるため、宿泊施設に関する取り組みが必要と考える。
	1	近年の大雨の増加や、震災以降の山の工事や設備の老朽化から、町の排水機能が心配であるため、排水計画に対して目を向けることが必要と考える。
	2	町内に住んでいる人も、仕事は町外だという人が多いため、そのような人が定住できる取り組みならば、若者の流出防止につながるのではないかと。
佐藤(拓)委員	1	山手の方の耕作地放棄が増えている現状で、農地以外の活用方法も視野に入れるべきと考えている。昔の農地を守るというよりかは、立地の良い場所を主軸とした考え方に転換することも考えてもよいと思う。
	2	つばめの杜に家を建てられずに、移住をやめたという人も数人知っている。つばめの杜の宅地整備も必要と考える。
	2	「町民の意向と期待」の内容について、雇用の場の確保という文言が記載されているが、自分的にはそれに至るまでの経過の文言が必要と考える。「新規就業における人材の育成」などを経て、雇用の場の確保につながるのではないかと。「まちの現状」と「町民の意向と期待」双方が人材の確保・雇用の場の確保といったぼやけた表現では、何も動かないと思う。「雇用の場の確保」をするための「人材の育成」といった文言が必要と考える。
栗和田委	1	子育てとは地域の全員で行う必要があると考えている。地域に高齢者が



員		多くなる中で、地域と行政と学校が連携し、子供を見守りながら、子育てをする必要がある。
	1	第5次総合計画の保健福祉のところ、「地域全体の子供や子育て世帯及び高齢者世帯及び障がいのある方を支えるまちづくり」という文言があったが、継続させてほしい。
	1	今後、障害を持って生まれてくる子供が増えると思うが、こういった子供たちを安心して預けられる場所は、山元町にはまだない。そのようなものを行政で作るか、地域で見守れる体制の構築ができればと思う。
佐藤(恵)委員	1	高齢化により離農する方が多くなると思うが、継承率が課題となると考えている。また、その際に残された農地をどのように利用するかは、人口減少に対する要因の一つとなると考えている。
寺島委員	1	理想を言えば、人口を増やしていく政策を考えるべきと思う。
	1	お金もかかると思うが、別枠でも、人口減少を止める・人口を増やす、山元町独自の政策を進めても良いと思う。
	3	私はこの審議会の機会ですべて初めてこのような計画や方針があることを知ったが、年配の方はHPに記載されているといっても見ない。移住・定住を掲げているのであれば、その方針を町民全員で共有する必要があると考える。そのためのPRを幅広く行うべきでないか。
	3	人を集めるためには、震災前のようにお祭りが必要ではないか。町にはいちごをはじめとした地場産品が豊富にあるのだから、それを組み合わせたお祭りを開催することを検討してほしい。
	3	お祭りは山元町だけではなく、テレビ局等を使い宮城県全体にPRしていく必要があると思う。
松村委員	1	宮城病院の内科を充実するべきである。
	1	高速のインターを利用した企業誘致を行うべきと考える。
	1	教育に関して、小中学校の教育の何か一面で、優れた項目があれば、教育を重視する家族が移住する一つの要因となるのではないか。また、基本的なことだが、いじめを出さないということ、家庭や学校での教育で徹底するべきと考えている。
	1	学校再編に関して、編成するしかないという方向ではあるが、小学校については一つにしてしまわず、二つにするなど、慎重に進めるべきと思う。また、編成により新しい校舎を建てることはせず、空いた校舎も活用するようにし、あるものを活用する方向で考えたい。
山崎委員	3	実りある学習体験の充実をしてもらいたい。
阿部委員		キーワード：「にぎやかな過疎」「人口減・人材増」
	②	「にぎやかな過疎」：人口減少が続き、データ上は過疎地域であるが、地域内では新しい動きがみられ、賑わいが感じ取れる。
清野委員	②	魅力ある農業漁業（特色ある農産物の作付けと魚貝類のPR
	②	高齢化に対して、医療費の増加、介護施設の充実、病院・買物の充実、スーパー・コンビニ等の連携による移動
	②	町の配布物の併用とLANによるインターネット活用での発信
	②	町の歴史の活用・PR
	②	少子化に対して、学校の統合、子育て支援の充実
	②	人口減少に対して、魅力ある住みよい町、観光施設の充実（農漁等、自

		然環境の充実、PR)
	②	民宿等宿泊施設の充実、交流人口の活性化、公共施設（区民センター等）の活用
	②	名所旧跡の調査とPR、ルートマップの充実
	②	町特産のPRと体験施設、無料自転車の貸し出し
鈴木委員	②	今日、自然災害は激化・複雑化の傾向にあり、消防は「最悪の場合を想定し、それに対処する準備が必要となっており、また、防災拠点が機能するかなど多くの懸念が存在する。
	②	大きな問題として、「人口減少による高齢化」による災害の深刻化・対処方法の深刻化があり、この変化により、消防団をはじめとした町の様々なものに変化が求められる。これには長期的な視野に立ち、町全体の計画の「志」を一つにまとめる必要があると思っている。
	②	『子育てするなら山元町』のスローガンに有る様に、明るい未来を見ずえた明るい計画が必要と考えます。
	②	十人いれば、十人のまちづくりが有り、万人いれば万人の暮らしが在る。それを踏まえた上で、これまでより積極性のある、長期総合計画を策定する。
	②	生活重視の施策から、「山元町」が生き残るための、経済重視の政策へ。
	②	スローガンともいふべき、背骨は一つ。全てをこれから派生・発展させる。暮らしの中には、子どもから高齢者までであるが、その中においても、特に「働く」に重点をおき、まちづくりを考える。
	②	「新しいまちづくり」には、新しい頭が必要であり、新しい発想でのまちづくりを期待する。
	②	町の道路は、行き止まり・丁字路が多いため、「点」を結ぶ「線」を書くように海と山・北から南へと町を繋ぐ、誰にでもわかりやすく、誰でも安全に通れる道を作ることが必要である。できれば碁盤の目のように。
②	道を計画するのに最も大切なことは「やさしさ」であり。車も通る。人も安心して歩ける。緑がある。所々に休み場がある。山元町に、モノや人を繋げる「道」を作る必要がある。	